

東日本大震災の医療支援に参加して

教育研修部長（救命救急センター長） 川崎貞男

去る平成 23 年 3 月 11 日に発災した東日本大震災の医療支援に、3 月 16 日から 3 月 22 日まで（現地活動：3.5 日間）参加させていただきました。現地に到着した当日は、仙台市内にある仙台医療センターの医療支援と言う形で参加いたしました。病院のある周辺は、ライフラインはまだ復旧していない地区がほとんどでしたが、ガソリンも少しずつ供給されつつある状況で、一見、平静を取り戻しつつある印象でした。2 日目からは、被害の大きかった東松島市の避難所の巡回診療と避難所の情報収集の任に就きました。東松島市の沿岸地区は壊滅的と言う表現が、全く大袈裟でない惨状でした。津波が内陸奥深くに達したことが容易に想像できる状況で、あちこちに流された自動車がひっくり返っている状況でした。そんな中でも、幹線道路は少しずつ復旧しつつあり、地元の方々や支援で作業されている方々の努力の跡に圧倒されました。避難所では、地震による外傷の患者さんはほとんどおらず、かかりつけの病気の支援が主な仕事となりました。その中でも、糖尿病患者さんの血糖管理は深刻でした。その事は、事前から予測していましたが、ただ単にインスリンを持っていれば事足りるのでなく、慢性疾患については日常生活が変化したことに対応するという、単発でない支援が必要であることを痛感いたしました。3 月は東北地方ではまだまだ寒い時期であり、風邪などで体調を崩されている方も多く、避難所生活であることも重って強い不安を抱えた状態でした。これからは、暖かくなりますが、そうなれば、更に衛生面の管理が重要になることが予想されます。少しずつ復旧している報道がなされていますが、まだ 15 万人の方が避難所に暮らされているとの事です。当院が今後も支援を続けていく事はもちろんのこと、個人としても、同じ日本に住むものとして、また、医療技術者として出来る支援を続けたいと思います。